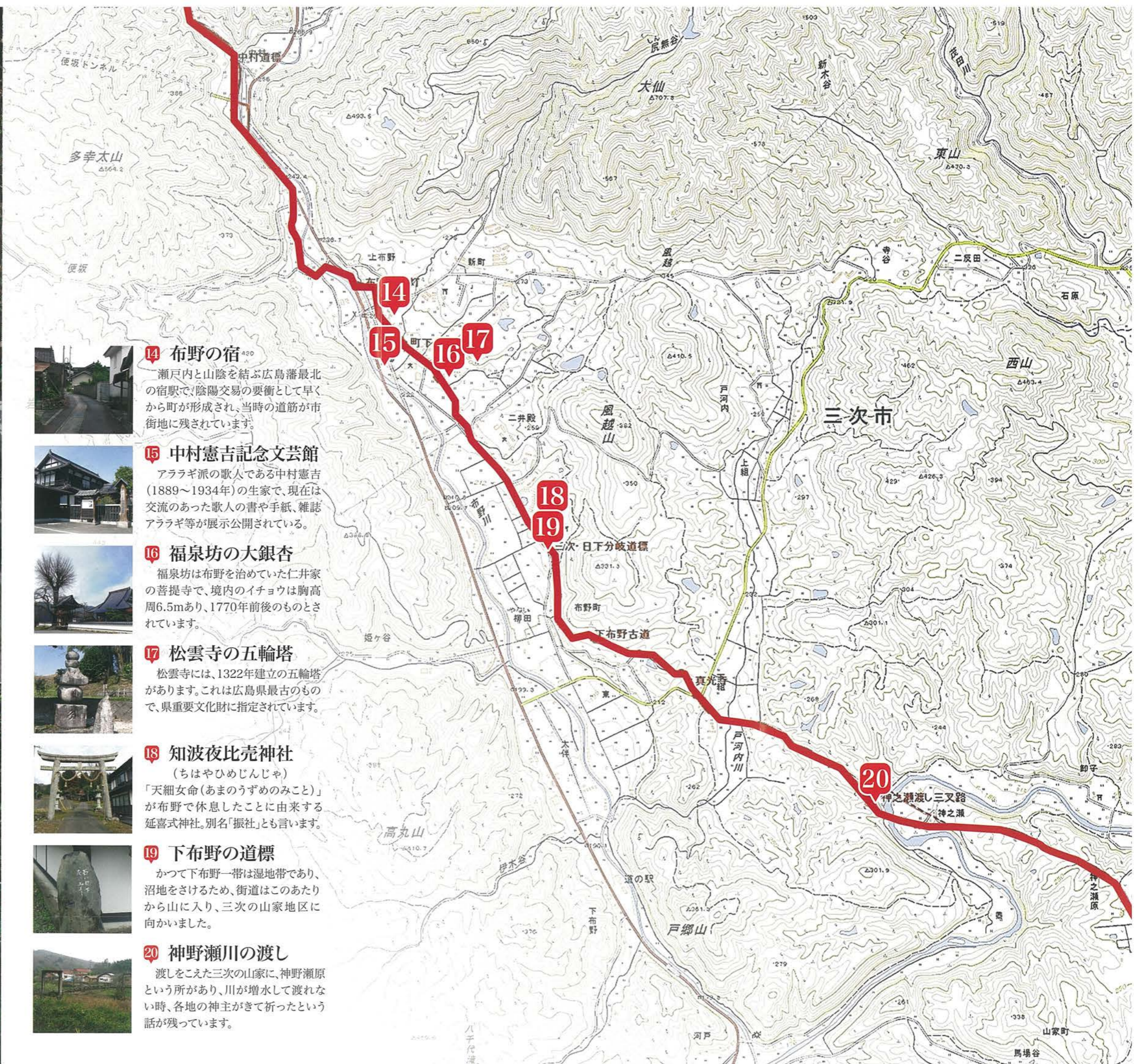


銀の道

布野編

江戸・明治・現代の道を通る



14 布野の宿

瀬戸内と山陰を結ぶ広島藩最北の宿駅で、陰陽交易の要衝として早くから町が形成され、当時の道筋が市街地に残されています。



15 中村憲吉記念文芸館

アララギ派の歌人である中村憲吉(1889~1934年)の生家で、現在は交流のあった歌人の書や手紙、雑誌アララギ等が展示公開されている。



16 福泉坊の大銀杏

福泉坊は布野を治めていた仁井家の菩提寺で、境内のイチョウは胸高周6.5mあり、1770年前後のものとされています。



17 松雲寺の五輪塔

松雲寺には、1322年建立の五輪塔があります。これは広島県最古のもので、県重要文化財に指定されています。



18 知波夜比売神社

(ちはやひめじんじゃ)
「天細女命(あまのうずめのみこと)」が布野で休息したことに由来する延喜式神社。別名「振社」とも言います。



19 下布野の道標

かつて下布野一帯は湿地帯であり、沼地をさけるため、街道はこのあたりから山に入り、三次の山家地区に向かいました。



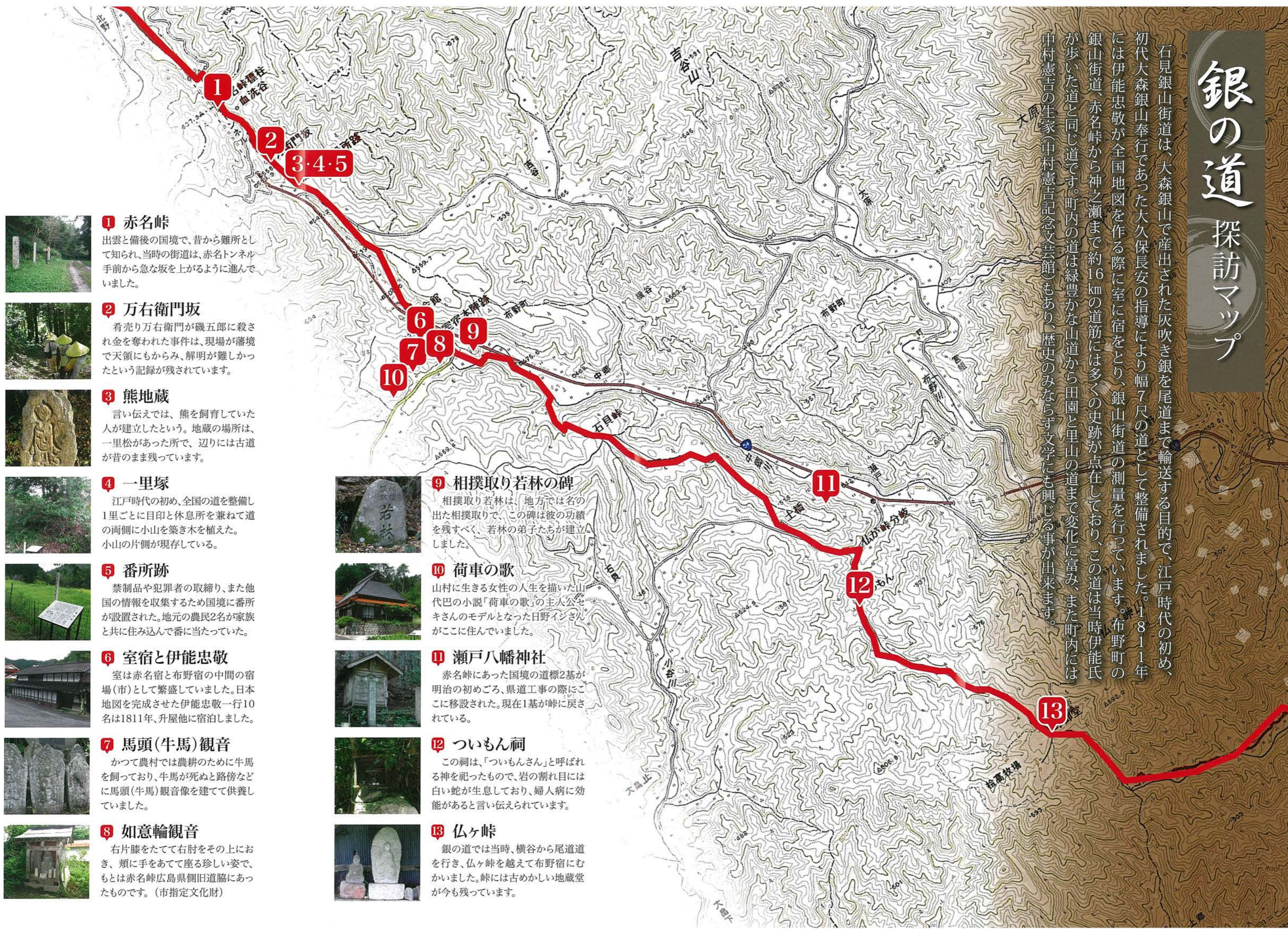
20 神野瀬川の渡し

渡しをこえた三次の山家に、神野瀬原という所があり、川が増水して渡れない時、各地の神主がきて祈ったという話が残っています。



銀の道 探訪マップ

石見銀山街道は、大森銀山で産出された灰吹き銀を尾道まで輸送する目的で、江戸時代の初め、初代大森銀山奉行であった大久保長安の指導により幅7尺の道として整備されました。1811年には伊能忠敬が全国地図を作る際に室に宿をとり、銀山街道の測量を行っています。布野町の銀山街道、赤名峠から神之瀬まで約16kmの道筋には多くの史跡が点在しており、この道は当時伊能氏が歩いた道と同じ道です。町内の道は緑豊かな山道から田園と里山の道まで変化に富み、また町内には中村憲吉の生家(中村憲吉記念文芸館)もあり、歴史のみならず文学にも興じる事が出来ます。



1 赤名峠

出雲と備後の国境で、昔から難所として知られ、当時の街道は、赤名トンネル手前から急な坂を上がるように進んでいました。



2 万右衛門坂

肴売り万右衛門が磯五郎に殺され金を奪われた事件は、現場が藩境で天領にもからみ、解明が難しかったという記録が残されています。



3 熊地藏

言い伝えでは、熊を飼育していた人が建立したという。地藏の場所は、一里松があった所で、辺りには古道が昔のまま残っています。



4 一里塚

江戸時代の初め、全国の道を整備し1里ごとに目印と休息所を兼ねて道の両側に小山を築き木を植えた。小山の片側が現存している。



5 番所跡

禁制品や犯罪者の取締り、また他国の情報を収集するため国境に番所が設置された。地元の農民2名が家族と共に住み込んで番に当たっていた。



6 室宿と伊能忠敬

室は赤名宿と布野宿の中間の宿場(市)として繁盛していました。日本地図を完成させた伊能忠敬一行10名は1811年、升屋他に宿泊しました。



7 馬頭(牛馬)観音

かつて農村では農耕のために牛馬を飼っており、牛馬が死ぬと路傍などに馬頭(牛馬)観音像を建てて供養していました。



8 如意輪観音

右片膝をたてて右肘をその上におき、頬に手をあてて座る珍しい姿で、もとは赤名峠広島県側旧道脇にあったものです。(市指定文化財)



9 相撲取り若林の碑

相撲取り若林は、地方では名の出た相撲取りで、この碑は彼の功績を残すべく、若林の弟子たちが建立しました。



10 荷車の歌

山村に生きる女性の人生を描いた山代巴の小説「荷車の歌」の主人公セキさんのモデルとなった日野イシさんがここに住んでいました。



11 瀬戸八幡神社

赤名峠にあった国境の道標2基が明治の初めごろ、県道工事の際にここに移設された。現在1基が峠に戻されている。



12 ついもん祠

この祠は、「ついもんさん」と呼ばれる神を祀ったもので、岩の割れ目には白い蛇が生息しており、婦人病に効能があると言伝えられています。



13 仏ヶ峠

銀の道では当時、横谷から尾道道を行き、仏ヶ峠を越えて布野宿にむかいました。峠には古めかしい地藏堂が今も残っています。

